

Cisco IP テレフォニーをシスコ ユニファイド コミュニケーションにアップグレードしてコミュニケーションによるメリットを向上

シスコが Cisco® IP テレフォニーを発売してからそれほど経過していませんが、ユニファイド コミュニケーションは組織に必要な戦略テクノロジーの中でも、上位 2 つのテクノロジーの 1 つに数えられるようになりました (Gartner 社の「2008 年トップ テン戦略テクノロジー」<http://unifiedview.wordpress.com/category/ucc/>)。ただし、この間にもユニファイド コミュニケーションの状況は大きく変化してきました。ここ数年間、Cisco CallManager や Cisco Unified Communications Manager をアップグレードされていないのであれば、この機会にぜひご検討ください。アップグレードを行うと、ビジネス上のメリットをすぐに、しかも継続的に得ることができるため、以下のようなことが実現できます。

- 生産性を向上
- 付加価値の高い、新しい分野のアプリケーションへのアクセスを提供
- ビジネスの革新を推進
- IT の複雑さを低減

誰もが参加できるようにワークスペースを変革

シスコ ユニファイド コミュニケーションは 2006 年に初めて販売されました。Gartner Group によると、現在ではあらゆる規模の企業 (Fortune 500 社の 70% 超) が、ユニファイド コミュニケーションにシスコのネットワークを中心としたアプローチを採用して、競争上の優位性を確立しています。シスコはユニファイド コミュニケーションの計画を 5 つの段階に分けており、Cisco Unified Communications System Release 7.0 はその計画に不可欠な要素です。1 つの計画で、5 つのビジネス価値を 1 つずつ実現します (図 1)。

図 1 シスコが提供するユニファイド コミュニケーションの 5 段階の計画



すべてのワークスペース間でコラボレーションを行う機能

Cisco Unified Communications System Release 7.0 では、順応性の高いワークスペースを作成して、生産性の向上、ビジネスの俊敏性、セキュリティ、および競争上の優位性を実現することができます。今回のリリースでは、組織の内外でのコミュニケーションの効率化とコラボレーションの機能強化を図ることで、新しいソリューションおよび機能強化を提供しています。Release 7.0 では、顧客にとって不可欠となる、以下の 3 つの優先事項に重点を置いています。

- オープンなシステムを提供: サードパーティ ソリューションとの円滑な相互運用と密接な統合が可能

- ユーザ エクスペリエンスを向上:いつでも、どこでも、どのデバイスでも利用可能な総合的なユニファイド コミュニケーションによって、ビジネス変革を推進し、生産性を向上
- 総所有コスト (TCO) の改善:ネットワーク プラットフォームとネットワーク管理を最適化してセキュリティを確保することで、現在 Cisco Unified Communications System Release 7.0 で利用できる新規および拡張ソリューションの一覧を表 1 に示します。

表 1 Cisco Unified Communications System Release 7.0:新規および拡張ソリューション

お客様の優先事項	ソリューション
オープン システム	<ul style="list-style-type: none"> • 緊密な統合 <ul style="list-style-type: none"> ◦ Cisco Unified Personal Communicator と Microsoft Office Communicator 間のビジネス ツー ビジネスでのプレゼンス フェデレーション ◦ IBM Lotus Sametime 対応のシスコ ユニファイド コミュニケーション プラグイン • セキュリティ <ul style="list-style-type: none"> ◦ Cisco Adaptive Security Appliance 8.0:ユニファイド コミュニケーションの関連セキュリティ サービスを提供 • モビリティ <ul style="list-style-type: none"> ◦ Cisco Unified Mobile Communicator 7.0:Microsoft Windows Mobile を新たにサポート
ユーザ エクスペリエンス	<ul style="list-style-type: none"> • 音声およびユニファイド メッセージング <ul style="list-style-type: none"> ◦ Cisco Unity® 7.0:生産性向上機能を新たに提供 ◦ Cisco Unity Connection 7.0:生産性向上機能を新たに提供 • 音声、ビデオ、および Web 会議 <ul style="list-style-type: none"> ◦ Cisco Unified MeetingPlace® 会議: Cisco WebEx® 統合機能を新たに提供 • ユニファイド コミュニケーション クライアントおよびウィジェット <ul style="list-style-type: none"> ◦ Cisco Unified Personal Communicator 7.0:インスタント メッセージング (IM)、プレゼンス、ビデオ、クリック ツー コール、および Web 会議を新たにサポート ◦ Cisco Unified Mobile Communicator 7.0:ユニファイド コミュニケーション機能をモバイル ユーザに拡大 ◦ Cisco Unified IP Phone:プレゼンスをサポート ◦ Cisco Unified Communications Widgets:生産性向上アプリケーションを新たに提供
TCO の改善	<ul style="list-style-type: none"> • 管理性 <ul style="list-style-type: none"> ◦ Cisco Unified Communications Manager 7.0:セッション イニシエーション プロトコル (SIP) のラインおよびトランクの拡張機能、セキュリティ、および新規ユーザ機能を新たにサポート ◦ Cisco Unified Communications Manager Appliance:アプライアンス導入環境を提供 • 拡張性 <ul style="list-style-type: none"> ◦ Cisco Unified Presence Server 7.0:クラスタあたり最大 30,000 ユーザまで新たにサポート ◦ Cisco Unity 7.0:1 つのサーバに 200 ポートおよび 15,000 ユーザをサポート ◦ Cisco Unity Connection 7.0:1 つのメッセージング ネットワークに最大 50,000 ユーザをサポート • サービス <ul style="list-style-type: none"> ◦ Cisco Unified Workspace Licensing:ソフトウェアとサービスの調達コストの低減と簡素化 ◦ Cisco Fast Track Migration Service:投資利益率 (ROI) を達成する時間を短縮してリスクを削減 ◦ Cisco Unified Communications Software Subscription:ソフトウェアのメジャー アップグレードを低コストで提供

アップグレードで投資を最大化

シスコでは、3.0 から 7.0 までリリースをするたびに、ユニファイド コミュニケーションのポートフォリオを充実させてきました。最新版のソフトウェアを使用している、コミュニケーションの最適化を図っていない組織は、先行する企業に追いつくことができません。市場調査会社である Chadwick Martin Bailey によると、「コラボレーション効果」はユニファイド コミュニケーション アプリケーションを導入した数に関係があるということです。「ユニファイド コミュニケーションによって統合したアプリ

ケーション数が多ければ多いほど、全体的な生産性のメリットが大きくなります。それは、社員がメリットを得るチャンネルを多く持つことになるからです (Unified Communication Applications: Uses and Benefits, Chadwick Martin Bailey, July 2008)。組織内に「コラボレーション効果」を実現するには、Cisco Unified Communications System の通話処理コンポーネントである Cisco Unified Communications Manager をアップグレードするのが最初のステップです。

いつでも、どこでも、誰とでも生産性が向上

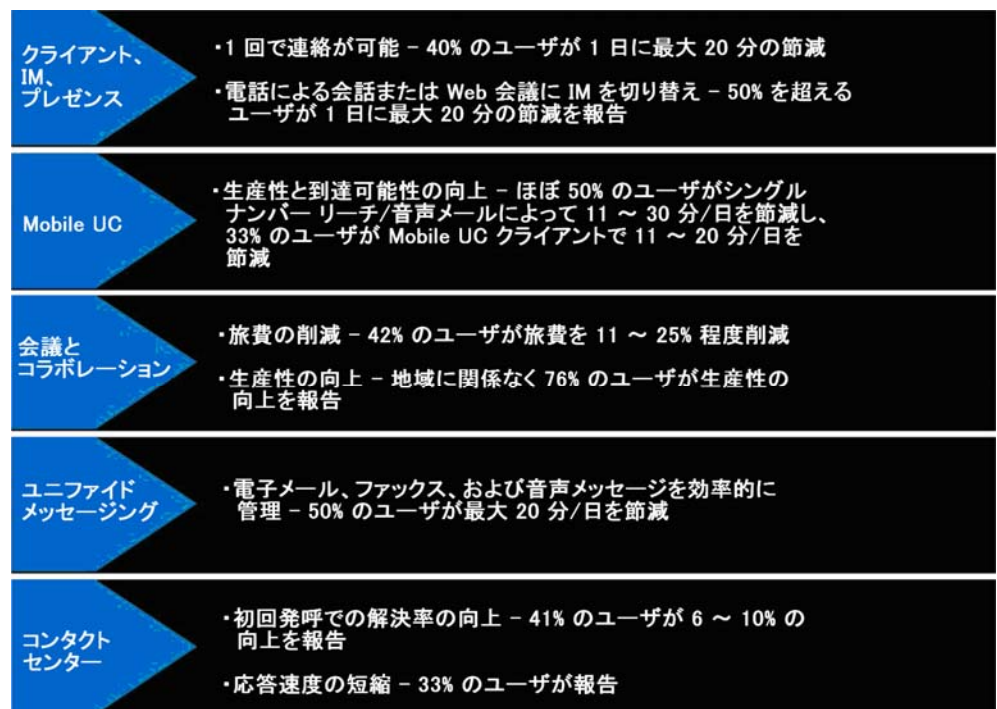
Cisco Unified Communications System の新規および拡張ソリューションを導入することで、組織に属するすべての人がその生産性を大幅に改善することができます。

- Cisco Unified Communications Clients : Cisco Unified Personal Communicator および Cisco Unified Mobile Communicator に新たなコミュニケーション クライアントが追加されました。それぞれのソフトウェアをリリースすると、プレゼンス、IM、ビデオ、クリック ツー コール、Web 会議などの新機能がこれらの製品に組み込まれます。オフィスに居ても外出していても、目的の人との連絡が 1 回で取れます。また、IM セッションから、電話での会話、ビデオ通話、または Web 会議へと切り替えて続きを進めることができます。これによって、以下のことを実現できるようになりました。
 - 意思決定とコラボレーションを促進
 - コミュニケーション効率は維持しながら、出張にかかる時間と費用を節約
 - リモートでもモバイルでも、効果が増大
 - コミュニケーションの遅延によるコストを削減
- 音声、ビデオ、および Web 会議:最新版では、すぐに会議を行う機能が強化されたため、Cisco WebEx Meeting Center と Cisco Unified MeetingPlace の会議機能を緊密に統合することができます。この統合によって、以下のように「実際に集まった」ような仮想的な会議を行うことができます。
 - 生産性の向上と問題解決の促進:すべての音声および Web コラボレーションが 1 つのアクセス ポイントで実現
 - 販売、サポート、会議、およびトレーニングの効果を拡大:ソリューション間のシングル サインオン
 - 出張費の削減:オンプレミスおよびオンデマンドの会議で出張を削減
- ボイスメールおよびユニファイド メッセージング: Cisco Unity と Cisco Unity Connection ソリューションのメッセージ管理と生産性向上機能は簡素化されているため、生産性が大幅に改善されます。NFL (National Football League) と Aspen Valley Hospital (どちらも Cisco Unity のお客様) では、ユニファイド メッセージングを利用して、ユーザごとに 1 日あたり 60 分の節減が実現しています。生産性向上の新機能は、以下のとおりです。
 - 代替の内線とデバイスを自動的に認識する機能により、ボイス メールボックスへのアクセスを合理化
 - 「フォロー ミー (追跡)」転送設定で音声を有効にすると、通話を任意のデバイスへと簡単に転送が可能
 - 音声、電子メール、およびファックス メッセージに対応したショート メッセージ サービス (SMS) の通知機能が Cisco Unity Connection に新たに追加
 - Most Recently Used (MRU) や Name Suggest などの Telephone User Interface (TUI) 機能による高速なアドレッシング
 - 音声アクセス機能の改善によって、コマンドや名前を話して行う「ハンズフリー」操作が可能

- ウィジェット: Cisco Unified Communications Widgets は、すべてのワークスペースでパーソナライゼーションと生産性を向上できるプラグインであり、無料で利用できるウィジェットです。これらのウィジェットは使いやすく、以下のことが実現できるため、コラボレーションを促進できます。
 - デスクトップ アプリケーションや Web ブラウザから直接クリック ツー コール (電話番号の入力は不要)
 - Cisco Unified IP Phone のディスプレイから Cisco Unity または Cisco Unity Connection の音声メッセージを表示したり、聞いたり、応答したりでき、しかも、企業のボイスメール ボックスへのダイヤルが不要

図 2 では、ユニファイド コミュニケーションの機能とメリットの一覧を示します。

図 2 ユニファイド コミュニケーションのメリット



Source: Sage Research, 2008

- コンタクト センター: シスコの顧客コンタクト ソリューションは、ここ数回のリリースで大幅に機能強化されました。プレゼンスやビデオのサポートなどが追加されています。たとえば Cisco Unified Expert Advisor を使用すると、発信者が企業のどこにいても、個別分野ごとの専門家に接続できます。さらに、ビデオのサポートによって、より充実した、幅広い顧客サポート エクスペリエンスを提供できます。シスコの顧客コンタクト ソリューションでは、以下のことが実現できます。
 - 実質的に、個別分野ごとの専門家にアクセスすることで、初回発呼での解決率を向上し、回答時間を短縮: エージェントに通話のエスカレーションが必要となった場合、その通話を転送する前に、対応可能な専門家を簡単に確認することができます。
 - 収益の向上: コール センターを仮想化すると、一般的に同じスタッフでも 10 ~ 30% 程度多くの通話を処理できるようになります。また、多くの組織で、通話量が増加した場合でも、収益が向上したことが報告されています。
 - 顧客の満足度と忠誠心を向上: コンタクト センターの機能を統合することで、確実に、適切な技術と情報を持った適任者に話ができます。しかも、これが常に 1 回でつながるのです。この

ような応答性の良さによって顧客満足度が維持され、忠誠心が生み出されるため、収益性が向上するのです。

付加価値の高い、新たなアプリケーションを利用

シスコ ユニファイド コミュニケーションは、オープンで相互運用可能なアーキテクチャに基づいて構築されているため、サードパーティ ソリューションとの円滑な相互運用と緊密な統合を実現できます。シスコの技術開発パートナーでは、すでにアプリケーションの統合を実現しています。シスコでは、パートナーと連携して、シスコの最新版でアプリケーションの検証を行ってきました。たとえば、Arc、Witness、IPC、Cardiac、Corebridge などのパートナーについては、すでに Cisco Unified Communications Manager の最新版で各社のアプリケーションがテスト済みです。技術開発パートナーのこの堅牢なエコシステムによって、付加価値の高い、新たなアプリケーションを利用できます。

シスコでは、IBM や Microsoft などの戦略パートナーとも連携して、投資の保護、コラボレーションの拡大、生産性効果を実現する革新的なソリューションを提供しています。ユニファイド コミュニケーション システムを新たにリリースするたびに、これらのパートナーと協力して新しい相互運用のための機能を追加してきました。たとえば今回、IBM Lotus Sametime 向けには、新たにシスコ ユニファイド コミュニケーション プラグインを提供しています。Sametime を利用すると以下のことができるようになります。

- 音声およびビデオの通話
- コンタクト リストおよび IM セッションから音声、ビデオ、および Web コラボレーション セッションを開始
- 通話中の人を表示
- Lotus Sametime クライアントから音声メールを直接アクセスして管理

シスコでは、Microsoft Office Communications Server (OCS) と Live Communication Server (LCS) 環境もサポートしています。このため、Microsoft ユーザは以下のように高度なユニファイド コミュニケーション機能を使用できます。

- 同時呼び出し：Cisco Unified Communication Manager では、Microsoft Office Communications クライアントを同時に呼び出します。
- ビジネスツービジネスでの、フェデレーションのサポート：Cisco Unified Communications Personal Communicator 7.0 では、IM、プレゼンス、友達リスト、ビジネス間のステータス更新をサポートしています。
- Windows Mobile のサポート：Cisco Unified Mobile Communicator では、Windows Mobile をサポートしています。
- クリック ツー コール機能：Cisco Unified Communications Widgets では、Microsoft Office、Internet Explorer、Outlook、および SharePoint アプリケーションとのクリック ツー コールをサポートしています。

シスコでは、オープンなシステム アーキテクチャを採用しているため、ユニファイド コミュニケーションおよびネットワーク サービスを他のビジネス アプリケーションと簡単に統合することができます。

プレゼンスなどの高度なユニファイド コミュニケーション機能を持つカスタム アプリケーションを構築するには、豊富で幅広いアプリケーションおよび開発ツールを備えた Cisco Unified Application Environment 2.5 を利用できます。これによって、Web または企業の開発者にテレフォニーやユニファイド コミュニケーションに関する技術力が不足していても、ユニファイド コミュニケーション アプリケーションを短期間で容易に開発することができます。

Cisco Unified Application Environment の最新版を使用すると、プレゼンス機能をカスタム アプリケーションに拡張できます。このような開発環境の統合によって、大幅にユニファイド コミュニケーション開発の期間を短縮し、費用を削減し、障害の発生率を低減することができます。

ビジネスの革新を実現

業務アプリケーションにユニファイド コミュニケーションの機能を組み込むことで、業務プロセスの革新を行うことができます。その例は次のとおりです。

- 日本の大手小売業者である三越では、ユニファイド コミュニケーション機能を在庫アプリケーションに組み込むことにより、同社最大の収益率を誇る中心店舗での顧客エクスペリエンスを最適化しています。無線 ID タグ (RFID) 対応の店内在庫アプリケーションを試験的に導入した三越では、その結果、6 か月で収益が 113% (前年対比) 向上しました。同時に、販売のサイクル時間を 20% 削減し、さらに顧客満足度も大幅に向上しました。
- 英国に本拠を置く JJ Food Service では、同社の重要な顧客にユニファイド コミュニケーション機能の適用を拡大したところ、転送数とコールバックの削減により、コンタクト センターの生産性が 650 万ドルも増加しました。このような削減が実現できたのは、コンタクト センターと顧客関係管理 (CRM) アプリケーションの緊密な連携を図り、さらにユニファイド コミュニケーション アプリケーションのインテリジェントなコールルーティング機能を活用することで、プロセスを大幅に合理化したためです。このアプリケーションは 10 日で構築されましたが、顧客満足度も向上する結果につながりました。

IT の複雑さを低減

シスコではここ数回のリリースで、Cisco Unified Communications Manager に対して幅広い機能を追加してきました。以下のような機能によって、IT の複雑さが大幅に改善されました。

- アプライアンス導入環境の強化: Cisco Unified Communications Manager は、運用コストと IT の複雑さを低減するように最適化されたアプライアンス導入環境を基盤としており、その機能は次のとおりです。
 - 短期間で容易な導入の実現: このソフトウェアは、Cisco Media Convergence Server (MCS) のプラットフォームにあらかじめ読み込まれています。ソフトウェアに含まれるイメージを 1 つにすることで、基盤となるネイティブのオペレーティング システムと Cisco Unified Communications Manager のプロビジョニングが自動化されます。
 - 特別な管理スキルが不要: 管理者に特別な資格は必要ありません。それどころか、基本的な OS 管理スキルさえも不要です。
 - 容易で柔軟性に富んだ管理機能の提供: 管理者は、基盤となるオペレーティング システムにアクセスする必要が一切ありません。ディスク容量の監視やシステムのモニタリング、アップグレードなどのシステム管理作業は、すべて自動化されているか、または GUI から制御されます。
 - 管理作業の簡素化: このアプライアンスでは、Web 経由でリモートの自動変更管理が可能です。
 - 迅速で合理化されたアップグレード: アプライアンスにデュアルパーティション方式を採用すると、現在アクティブな Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアのバージョンを維持しながら、アクティブでないスタンバイ ディスクのパーティションでソフトウェアのアップグレードを実行することができます。また、新しいリリースへのアップグレードでも以前のリリースへのダウングレードでも、バージョンの切り替えに伴う再起動は高速に行われるため、通常のアップグレードに関係する時間とリスクを大幅に低減することができます。
 - 堅牢なセキュリティの提供: Cisco Unified Communications Manager では、アプライアンスモデルでない場合に比べて、安全で柔軟な導入環境を提供しています。

- Cisco Unified Communications Manager で SIP をサポート: シスコでは、ライン側とトランク側の両方のインターフェイスで、電話とアプリケーション上で統合されたプレゼンスと、リッチなネイティブ SIP および Session Initiation Protocol for Instant Messaging and Presence Leveraging Extensions (SIMPLE) を統合しています。この統合によって、既存の H.323、Media Gateway Control Protocol (MGCP)、Skinny Client Control Protocol (SCCP)、Telephony Application Programming Interface/Java TAPI (TAPI/JTAPI)、および Q.SIG プロトコルとの円滑な相互運用を維持することができます。その結果、相互運用性が向上し、投資が保護され、幅広いエコシステムがサポートされます。
- サーバの統合: Cisco Unified Communications Manager は、ここ数回のリリースで多くの機能が強化され、ビデオ テレフォニー、モビリティ機能、サードパーティ製の多くの統合製品によって構成されるようになりました。サービスが統合されてサーバの数が削減されるため、IT 管理の合理化を支援します。たとえば、Cisco Unified Communications Manager Version 6.0 を使用すると、Cisco Unified Mobility のアプリケーションは Cisco Unified Communications Manager とネイティブに統合されるため、別々のサーバを使用する必要がありません。また、サーバは Cisco Unified Communications Manager Business Edition でも統合されます。これは、中規模の企業に効果的なソリューションであり、1 つのサーバ (最大 20 サイトまでをサポート) 上に通話管理と Cisco Unity Connection の音声メッセージング機能を搭載することができるようになりました。
- WAN をまたがるクラスタリング: WAN をまたがる Cisco Unified Communications Manager のクラスタリング機能は、Cisco Unified Communications Manager の分散通話モデルの冗長性と、1 回の通話計画と音声システムの管理に 1 つの Cisco Unified Communications Manager クラスタを当てる単純さを兼ね備えています。このため、加入者サーバが各地のデータセンターに分散されている場合でも、高可用性で冗長性に富んだ設計を行うことができます。
- 管理機能の強化: シスコでは、Cisco Unified Communications Manager のここ数回のリリースで、継続的に多くの機能強化を行い、管理エクスペリエンスを改善してきました。たとえば、Cisco Unified CallManager Version 4.0 以降と Cisco Unified Communications Manager Version 4.3 以降から 5.0 以降にアップグレードする場合の顧客エクスペリエンスを向上させるために、Data Migration Assistant (DMA) だけでも 14 を超える機能強化を行いました。Version 7.0 では Local Route Groups がサポートされているため、通話計画の作成の効率化とインストールおよび設定時間の短縮を図れます。E.164 に準拠した "+" 符号ダイヤリング機能がサポートされているため、通話ログなどのディレクトリから簡単にダイヤリングできます。このような機能強化は、リリースのたびに行われています。

表 2 では、Cisco Unified Communications Manager 7.0 のアプライアンス拡張項目の一覧を示します。

表 2 Cisco Unified Communications Manager 7.0 のアプライアンス拡張項目

	拡張項目の説明	メリット
ソフトウェア管理	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Answer File Generator による自動インストール • コマンドライン インターフェイス (CLI) でのアップグレードまたはバッチ • Cisco Emergency Responder Version 1.0_2.0 用 Data Migration Assistant • CLI および GUI 経由のバージョンおよびバッチ インベントリ • Redundant Array of Independent Disks (RAID) と基本入出力システム (BIOS) のレベルおよび設定の管理 	ファームウェアとソフトウェアがインストール済みのため、計画、導入、および管理が迅速かつ容易です。
セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> • パスワードおよび個人識別番号 (PIN) ポリシーの実施 • セキュリティ イベント ログの記録 • Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Communications Manager Business Edition、および Cisco Unity Connection に共通の Cisco Security Agent 	セキュリティの状態が改善され、セキュリティの運用管理が容易になります。

運用	<ul style="list-style-type: none"> バックアップおよび復元に、複数のスケジュール設定が可能 事前バックアップのためのディスク容量の確認 American Power Conversion (APC) と一体となった、基本の無停電電源装置 (UPS) 	簡易化と柔軟性により TCO が削減されます。
共通の顧客エクスペリエンス	<ul style="list-style-type: none"> Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Communications Manager Business Edition、および Cisco Unity Connection では、共通のインターフェイスとツールの利用が可能 Cisco Unified Communications Manager Business Edition では、シングル ログインとシングル サインオンをサポート 	一貫性により TCO が削減されます。

移行の管理と投資の保護

シスコでは、お客様が適応可能な共同のワークスペースによって生産性のメリットを完全に活用できるように、シスコ ユニファイド コミュニケーションをリリースすることで企業を最新の状態に保つ支援を行っています。移行サービスは、以下のとおりです。

- Cisco Unified Workspace Licensing (UWL): このライセンスは、現在と将来に必要なソフトウェアおよびサービスを、簡単で分かりやすいパッケージとして包括的に提供するものです。ワークスペースのライセンスでは、シスコ ユニファイド コミュニケーションの幅広いアプリケーションやサービスをユーザ単位で購入することができます。このライセンスは、クライアントとサーバのソフトウェア、ライセンス、サービスとサポート、およびソフトウェアの定期利用契約をパッケージとして提供しているため、ビジネスでアプリケーションが必要になった時点でそのアプリケーションを導入できます。また、既存のシスコ ユニファイド コミュニケーション ソリューションは、アプリケーションが発売されたときにアップグレードや製品の追加を行うことで、今後のバージョンとの互換性の維持が保証されます。
- Cisco Unified Communications Software Subscription (UCSS): Cisco UCSS では、1 年、2 年、3 年の定期利用契約を結ぶことで、ご利用の IP コミュニケーション ソフトウェアを計画的にアップグレードできる、コスト効率の高い方法を提供しています。このサービスでは、コストを抑えながら、さまざまなシスコ ユニファイド コミュニケーション製品のメジャー ソフトウェア アップグレードを購入することができます。そのため、技術の発展に遅れることなく、製品の最新機能を利用することで生産性を向上し、投資利益率を最大化し、総所有コストの低減を図ることができます。
- Cisco Fast Track Migration Service: この新しいサービスを利用すると、導入時間の短縮が図れます。また、大幅に費用を抑え、しかも低リスクで移行することができます。このサービスでは、重要な要件の分析、テスト、設計、実装の各フェーズ方式を取ることができます。アプライアンス導入環境への移行を希望したり、20,000 程度のエンドポイントへのアップグレードを望む、現在シスコ ユニファイド コミュニケーションを使用しているお客様に最適です。

表 3 では、Cisco Unified Communications Manager のライフサイクル計画のタイムテーブルを示します。

表 3 Cisco Unified Communications Manager のライフサイクル計画

バージョン	ライフサイクル終了のお知らせ	販売終了	最終出荷日	ソフトウェアメンテナンスの終了	新たなサービス契約の終了	サービス契約更新の終了	サポート終了日
3.2		2006 年 1 月 13 日	2006 年 4 月 13 日	2007 年 1 月 13 日	2008 年 1 月 13 日	2008 年 4 月 10 日	2009 年 1 月 12 日
3.3	2007 年 1 月 22 日	2007 年 7 月 23 日	2007 年 10 月 21 日	2008 年 7 月 22 日	2008 年 7 月 22 日	2009 年 10 月 18 日	2010 年 7 月 22 日
4.0	2007 年 11 月 15 日	2008 年 5 月 15 日	2008 年 8 月 13 日	2009 年 5 月 15 日	2009 年 5 月 15 日	2010 年 8 月 11 日	2011 年 5 月 15 日

4.1	2007年11月15日	2008年5月15日	2008年8月13日	2009年5月15日	2009年5月15日	2010年8月11日	2011年5月15日
4.2	2007年11月15日	2008年5月15日	2008年8月13日	2009年5月15日	2009年5月15日	2010年8月11日	2011年5月15日
5.1	2008年8月15日	2009年2月13日	2009年5月14日	2010年2月13日	2010年2月13日	2011年5月12日	2012年2月13日
6.0	2008年11月1日	2009年5月2日	2009年7月31日	2010年5月2日	2010年5月2日	2011年7月29日	2012年5月1日

正式かつ最新の情報については以下のURLをご参照ください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_eol_notices_list.html

結論

ユニファイド コミュニケーションは、競争上の優位性を確立したい企業にとって、現在では必須のものとなってきています。シスコのネットワークを中心とするアプローチでは、コミュニケーションおよびコラボレーションのためのプラットフォームとしてネットワークを採用しています。このため、ネットワークに接続できる人なら誰もがユニファイド コミュニケーションの対象となります。Cisco Unified Communications Manager とシスコ ユニファイド コミュニケーションのアプリケーション群を利用できる、新規および拡張ソリューションによって、あらゆるワークスペースで効果的にコラボレーションができ、意思決定のスピードを上げ、バリュー チェーン全体に革新をもたらし、業界をリードする他のアプリケーションとの統合を進めていくことができるのです。ぜひ、今すぐアップグレードをご検討ください。このアップグレードによって確実に、生産性が継続的に向上し、付加価値の高い新たなアプリケーションが利用できるようになり、ビジネスの革新を実現し、IT の複雑さを低減できます。

詳細情報

シスコ ユニファイド コミュニケーションの他社での活用事例とメリットについて、詳しくは以下を参照してください。

<http://www.cisco.com/web/JP/solution/netsol/ipc/casestudy.html>

シスコ ユニファイド コミュニケーション ソリューションの最新リリースの詳細については、以下を参照してください。

<http://www.cisco.com/web/JP/product/hs/iptel/index.html>

Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアの最新版の新機能については、以下を参照してください。

Version 7.0 はこちらです。

http://www.cisco.com/web/JP/product/hs/iptel/callmgr/prodlit/data_sheet_c78-485333.html

Version 6.1 はこちらです。

http://www.cisco.com/web/JP/product/hs/iptel/callmgr/prodlit/product_data_sheet0900aec_d806e86dd.html

Version 6.0 の新機能についてはこちらです。

http://www.cisco.com/web/JP/product/hs/iptel/callmgr/prodlit/ucmv60_ds.html

Cisco Unified Communications アプライアンス導入の詳細についてはこちらです。

http://www.cisco.com/web/JP/product/hs/iptel/callmgr/prodlit/solution_overview_c22-485095.html

©2009 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。

本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter>

お問い合わせ先